



ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会  
編集・広報委員会  
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
〒807-0025  
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
第360号

## 神の民の特徴

マヘル神父

今月は、教会憲章第二章について一緒に考えたいと思います。

すべての信徒に当てはまります。だから、第二バチカン公会議は教会憲章を作った時に、非常に注意深く章の順序を整えました。すなわち、神と教会とのつながりを取り扱う第一の後で、すぐ第二章として「神の民」の事を取り扱い、聖職者と一般信徒の区別を問わず、すべてのキリスト者が共に持っている特徴を浮き彫りにしたのです。

教会憲章の第二章は、神の民の六つの特徴を述べています。

第一に神の民のかしらはキリストだ、という特徴です。すべての信者が、キリストと直結しているおかげで、御父とも直結しているのです。神の新しい民において、司祭だけが入るような聖なる場所というものは無いはず。すべての信者が神に近づくことが出来、神から直接に聖霊を受けており、神の民の使命を果たすよう神によって直接遣わされているのです。

第二に神の民の身分は、神の自由な子らのそれです。その自由とは何であるかということを知りたければ、イエズスの姿を見れば良いでしょう。イエズスは最も自由に生きる人間でしたが、決して情欲のままに勝手に動くような人間ではなかったのです。イエズスに

とって御父の意思を果たすことは楽しかったのです。良いことをするのは好きだ、愛することは嬉しい、それが本当の自由です。それを私達にもたらすものは、原動力としてキリストから与えられる聖霊です。聖霊を頂いた人にとって、神とともにいること、愛に生きること、そういうことは、本当にやりたいことなのです。だから自由になれるのです。愛の大きなエネルギーによって、キリスト者は導かれています。

第三に、神の民の根本的掟は、キリストが愛したように愛するということです。私達の律法は、箇条書きにされたような書物ではなく、イエズス・キリストそのお方なのです。キリスト者はイエズスの後を歩み、イエズスを仰ぎ見て従うものです。そのような生き方をしていると段々イエズス風になるのです。マザー・テレサ等の姿を見ると良く解ります。

第四に神の民の目的は、この世ですでに始まった神の国を発展させるということです。神の国を成長させるということは、神の愛の道具としての教会の務めです。神の国とはなんであるかということについて、ローマ書

巡礼旅行記・・・・・・・・・・2・3・5面  
小教区委員会報告・・・・・・・・・・4面  
ペルーからの現地報告・・・・・・・・・・6面  
幼稚園から・教会学校・・・・・・・・・・7面  
お知らせ・短歌・熊本益城町より・・8面

14章17節でパウロは非常に解りやすくこう言っています

「神の国は、聖霊によって与えられた正しさ、平和、喜びなのです。」

第五に、場合によって小さな群れとしか見えない教会は、全人類の救いの為の軸です。教会は、神の赦しと愛が、全人類を今でも包んでいるということを表しているところの集いなのです。私達のミサ、私達の祈りは、いつでも全人類を包んでいるものですし、私達は全ての人に希望と喜びと、平和を伝える媒介者の役割を果たしています。この意味で教会は、「救いの普遍的秘跡」と呼ばれています。

第六に、教会は旅するものです。すなわち、教会は、まだ到達点に至っていません。だから、教会はいつでも改革を必要とします。教会はいつも、その出発である主イエズス・キリストと信徒たちの集い、およびその到達点である永遠の命を基準にして、自分の現状を何度も直してゆく必要があるのです。そのことを可能にするのは聖霊です。聖霊がいつでも教会の内にとどまっているので、教会が老衰状態になりかけている時に、聖霊によって若返ってくるのです。

皆さん、聖霊の働きを祈って、私達も若返りましょう。



## 水巻教会巡礼旅行の記録

田中 拓

水巻教会には五島出身者が多くいます。皆さん、高齢になり「五島に行けるのもこれが最後かも・・・」という声に推され、五島巡礼旅行を企画しました。

ゴールデンウィークの最中、5月3日から5月5日まで、上五島2泊3日の旅でした。水巻聖母幼稚園長松川シスターも加わり、総勢29名が参加しました。参加者のうち、9名が本人または先祖が五島出身とのこと。参加者平均年齢70歳という高齢ツアーとなりました。

初日は朝5時半と早朝に水巻教会を出発。佐世保港に着くと、早速、浅田広子さんの親せきの出迎えと見送りを受けました。上五島有川港では島元照子さんの甥が待ち受け、五島の2日間の案内を引き受けてくださいました。昼食のお弁当をとった後、中ノ浦教会～土井ノ浦教会～桐教会～福見教会～浜串教会～鯛ノ浦教会と半日で6つの教会を訪れました。

2日目は頭が島教会と大曾教会を訪問した後、青砂ヶ浦教会でミサをあげました。シスターがオルガンを弾いてくださるなど、温かい歓迎を受けました。近くでお弁当を食べた後、曽根教会～江袋教会～仲知教会～(津和崎灯台)～冷水教会を訪問しました。

曽根教会は、浅田広子さんの出身教会で65年ぶりとのこと。旧友と再会し、お友達も一緒に巡礼しました。また、ここでは水巻教会で神学生として実習した山添克明神父様と偶然出会い、祝福をいただきました。仲知教会では島元照子さんの親戚(案内いただいた方のご家族)に出迎えていただき、手作りのふくれ饅頭とドーナツの差し入れをいただきました。水巻教会名物ふくれ饅頭のルーツに出会いました。

3日目は朝一番のフェリーで佐世保まで戻り、出津教会（ド・ロ神父記念館）～遠藤周作記念館～黒崎教会を巡りました。出津教会では教会守の方からド・ロ神父様や潜伏キリシタンの歴史について丁寧な説明をいただきました。その方が、なんと永谷義雄さんの親戚でした。ここでも手作りクッキーの差し入れをいただきました。

訪問した先々の教会では松川シスターの発案で、教会学校のため、青年のため、教会から遠ざかっている人々のため など教会ごとに意向を唱えながら祈りを捧げました。また備え付けの聖歌集があるところでは、聖歌を歌い、まさに神に捧げる巡礼の旅となりました。五島や長崎の教会はどこも綺麗に磨き上げられた美しさと静かさを備えており、神に仕える信徒の信仰の厚さが、お御堂を通じてひしひしと伝わってきました。また、この旅の中で、いろいろな出会いに神の導きを強く感じました。

宿舎での夜の食事では、参加者が次々に、前に進み出て、挨拶や感想を口にし、中にはなれめを述べる方もあり、一気に親睦が深まり一体感あふれるひとときとなりました。

「これが最後かも・・・」と言っていたのはどこへやら。「また、行くぞ！！」と血気盛んなお年寄り達でした。神に感謝！！



### 祈りの島五島、又は、カンコ餅の島

浅田広子

—行ってきました上五島—

五島は小さな集落に教会があります。どこを見ても海。五島の海は澄み切ってきれいでした。この年齢で教会巡りができて私は幸せものです。この思い出は大事です。一生の宝です。

今回は初めて行った教会が7か所ありました。どこの教会も大きくて美しい教会でした。4日、青砂ヶ浦の教会で感謝のごミサがありました。思い出深い青砂の教会、とても懐かしかったです。鯛の浦教会の外に出た時、山の上から祈りの声が聞こえてきました。あっ、神様が降りてきたと思いました。ルルドの前で、シスター、子供、大人の皆さんが聖母月でお祈りをしていました。

この旅行中に、私は同級生と65年ぶりに逢ってきました。赤岳の浜で、偶然、洗礼のなき子(代母をした子)と、いとこに逢いました。これは、神様が合せてくれたと思います。神様はいます。

私は五島に行くのに不安がありました。船が揺れる、行った先で自分の身のまわりができるか、座ったり立ち上がりができるか心配でした。一緒に行った皆さんが優しく、いつも声をかけてくれたり、やさしく手を貸してくれました。嬉しかったです。皆さんありがとうございました。そして男子の皆さん、私のためにたくさんのエネルギーを使ってくれて、ありがとうございました。介護さん、看護婦さん、ケアありがとうございました。この旅行をお世話してくださった関係者の皆さんに、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

# 委員会等報告

2017年5月分

## 5月度小教区委員会 5月7日

### 1. 行事予定

- ・6月4日(日) 小教区委員会  
議案最終確認 印刷
- ・6月11日(日) 総会資料配布
- ・6月25日(日) 総会開催

### 2. 議事

- ①今年ベリオン神父様が叙階50周年を迎えます。

12月10日に待降節 黙想会の指導も兼ねて、記念ミサを水巻教会であげていただくことになりました。

②ご協力いただいたアンケートの集計結果を聖堂後ろのテーブルに置いてありますので、ご覧ください。

③司祭館移設について



## 臨時小教区委員会報告 (5月20日(土) 午前10時～)

### 企業主導型保育事業(保育園新設)への申請について

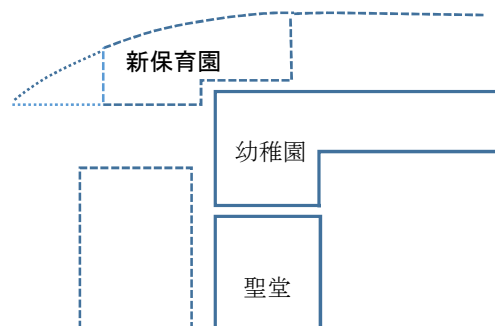
地域社会との関わりを深め、社会問題ともなっている未就園児(待機児童)の受入を進めるため、現在の司祭館を幼稚園の教室に改造し、それに伴い、司祭館を移設する方針について、これまで説明会、地区集会等を通じて議論を重ねてきました。

このたび国が支援する 企業主導型保育事業 という新しい制度が発足しました。保育園の新設を推奨するとともに、その事業費の3/4を国が補助するというものです。福岡司教区として、本事業に申請することになったとの連絡をいただきました。

水巻聖母幼稚園北側の駐車場の一部に新しく保育園を建設するという方向で申請するというものです。5月21日に信徒説明会を開催し、水巻教会としても協力していくことで一致を見ました。

地域の人達への働きかけにつながるよう、この活動が実を結ぶようお祈りください。

なお、司祭館移設については、今後の展開を見守りながら、進め方を改めて検討していくこととします。



5月3日～5日の巡礼旅行の写真と俳句・短歌を掲載します。

上五島巡礼にて

松尾恵子

静寂の中 祈りの声に  
うぐいす鳴きて

石段を 一歩一歩と這い上がる

あゝその姿こそ、まことの巡礼

海の碧 山のみどりに

白き教会

静寂の中 祈りをささげし 皆の顔

ステンドグラスの 光り輝き

調和する 祈る姿にマリア様

どこか優しき 眼差し向けて



## ペルーからの現地報告

2017年5月14日(日)ミサの後、イエスのカリタス修道女会・リマの聖女ローザ準管区 ペルー共同体、シスターケリドニア鳥瀬チエ子さんが特別休暇で一時帰国しましたので、水巻教会で現地報告していただきました。ケリドニアの意味はイタリア語で燕(ツバメ)。神からの恵みを運ぶ役目です。

### \*イエスのカリタス修道女会の紹介

世界中に広がり15カ国で働いています。働いている国は、日本、イタリア(総本部)ドイツ、南スーダン、中国、ベトナム、大韓民国、フィリピン、パプアニューギニア、オーストラリア、ブラジル、ボリビア、ペルー共和国、アルゼンチン、アメリカです。

今年の会のモットーは最も貧しい所、最も必要とされている所に宣教者を送ること。そのために総長たちはその地を探し訪問しています。

### \*ペルー共和国の紹介

ペルーにある有名な湖、チチ(父)カカ(母)コ(子)は日本語で名付けられています。

ペルー内で2016年から2017年3月現時点までに、洪水・土砂崩れ被害は227件発生しています。アマゾン川付近のきれいな街全部が水浸しになって逃げる場所もない、助ける人もいません。水はけが悪いから汚水が広がり、今は病気が充満し死者が多く出ています。日本からは医師団が派遣され治療にあたっています。ペルーは貧しい国なので援助物資が現地まで届きません。運搬の途中でどこへ消えてしまったのかも判らない。寄付したい人は自分達でグループを作り援助したい人たちに直接届けられないといけません。お金も同じです。信用できる人たちに預けて現地に届けてもらうことが必要です。

皆様の寄付でマリア・タキ保育園は助けてもらっています。私たちの修道会がペルーに派遣されて今年で35年になりました。レプトン会からの援助は20年になります。皆様からの寄付金はこども食堂に限定され活用されています。

### \*子ども食堂

一週間分の材料の買出し一覧表(品目と価格)と調味料等、日毎に使用した品目や価格のメモを見せていただきました。メニュー;4月の献立表の一部紹介

4/3(月)チャー飯、紫色のトウモロコシの飲み水 4/4(火)鶏の料理、卵、桃とミントの飲物

4/5(水)魚のフライ、ビート豆と野菜サラダ、パイナップルの飲物

4/6(木)ジャガイモのクリームと焼き肉、パパイヤとマラクイアの飲物

4/7(金)紫色のスパゲティと肝ソウの取り合わせ、レモン水

今年度は洪水被害のため、食料品の価格が2~3倍になっているそうです。

レプトン会では新しい会員が増えることを願っています。男性会員が一人でも多く賛同してくださることを祈っています。

世話係:ペルーの貧しい子どもを支えるレプトン会 (文責 岩本ナセ)



## 水巻聖母幼稚園から6月のお知らせ

いつも水巻聖母幼稚園へのお祈り・ご協力ありがとうございます。

雨の季節も神さまからの、お恵みを感じて過ごしている園児たちです。

これからも、皆様のお祈りよろしく願いいたします。

☆「みんななかよく」

☆「北富晴美先生の親子体操！」 日時：6月8日(木) 10時～ 幼稚園ホール  
「親子でリズム体操」・「運動の役割と家庭での関わり」

☆「幼稚園の探検をしよう！」 日時：6月10日(土) 10時30分～ 幼稚園ホール  
未就園児の皆さん幼稚園に遊びにきてください。お待ちしております。

幼稚園に小さなお子さまも遊びにきてください！ 園長 Sr.松川明子 職員一同



## 教会学校のページ

4月23日 出席者 山田蓮くん

今日の福音 ヨハネ 20章 19節から 31節を聖書より開き音読しました。

イエス様の復活を直ぐに信じないトマスに対してイエス様は、釘後のある手の傷、脇腹の傷を見せて、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」とおっしゃいました。

私たちは、普段の生活の中で神様やイエス様を目で見ることは出来ませんが、聖霊を感じるにより、イエス様が共にいて下さることを知ることができます。

最後に アマリアのお祈りをしました。

5月14日 出席者 山田蓮くん 樽角たつきちゃん 樽角ともきちゃん  
菅莉咲ちゃん(山田蓮くん従姉妹)

イエス様誕生の時のイスラエルと周りの国の様子をビデオで見ました。

救い主が誕生したことを知り、星の導きにより馬小屋に向かう三人の博士や、恐ろしいくらみを考えるヘロデ王の話などを見ました。

古いビデオなので映像と音声あまり良くありませんでしたが、熱心に質問をしたり、興味をもって観ている子どもさんもいらっしゃいました。





人ひと

★信徒総会★

信徒総会の開催が決定しました。

日 時：6月25日(日) ミサ後

信徒の皆様の参加をお願いします。

総会資料は11日にお渡ししますので、事前に目を通されてください。

【転入】ようこそ、水巻へ

◇掛布 いずみさん

黒崎教会から 遠賀地区へ

【帰天】安らかに！

◇5月3日 ヨゼフ 片岡 一夫さん

(芦屋地区)

益城町より お礼状

初めまして、堀内正訓です。先日は貴重なご支援をいただき感謝いたします。今、益城町は、建物の解体工事も町の内部まで進んでいます。いずれは、終末を迎える復興ですが、これからが長いと感じています。

時間が解決してくれることもあります。まずは、益城町とそれを支える人々の努力だと信じています。何事もこれからです。本当にご支援ありがとうございました。

乱筆、乱文ですが、御礼申し上げます。失礼いたします。



折尾地区 西山寿美枝さんの短歌

落ちし花入れしコップの水澄みて

大きな花弁全身で浮く

戦でなく事変事変で片づけし

国の真意はいずこにあらん

霧深き小道をゆけば足元の

虫がとび出す小さき羽音

路地裏の小さき小道は行き止まり

山裾の家すみれは咲き満つ

透明な羽根におのれを秘めながら

懸命に鳴く蟬のあわれさ

六月は紫陽花の花紫の

大きな鞠を涼しく活かす



ミサとは、命をかけたイエス様の祈りです。ミサの目的は、全生涯を掛けたイエスが祈りをささげられた内容(次)です。「私が天から降ってきたのは、私をお遣わしになった方の御心を行うため。その御心は、私に与えて下さった人を一人も失わないで復活させること。(ヨハネ6)」・・・先程(前回掲載)の猫は幸いです。空き缶をはずしてもらい、食べ物を与えて貰って。このように一人も滅びさせず、イエス様が自分のために、一生涯、働いてくれるのです。長崎教区の私の同僚の司祭の、その父上の死の直前。声を出すことができないので、指で息子の手に、指文字を書いた。ありがとう、と。最後の時、それは素晴らしい時でした。

さて、イエスの十字架上で最後の言葉は、「**わが神、なぜ、私を見捨てられたのですか？**」が知られていますが、**本当にこれが最後の言葉か、私は疑っていました。**しかし、この言葉には続きがありました。(要するに詩編22章、このすべてをイエスは唱えたのです。)よく知られているイエスの言葉は、詩編22章の最初の部分だけに相当。ユダヤ人なら先が分かるでしょう。(百人一首のかるたの上の句と下の句の様に。)次には「口は渴き、素焼きのかけらとなり、骨が数えられるほどに。」とありますが、この詩編の最後は、「**私の魂は必ず命を得て、子孫は神に仕え、主のこゝろを来るべき世に語り伝え、成し遂げてくださった恵みのみ業を民の末に告げ知らせる。**」となっています。すなわち、命を得て復活する。しかも2000年たってもイエスの子孫、つまり信者が居ます。主のこゝろを成し遂げてくださった言葉を聞いて、私は、これだ!と思いました。

この詩編22章には、次の句も含まれています。「私は大いなる集会で・・・満願の捧げものをささげます。貧しい人は食べて満ち足り・・・命が与えられる。」イエスはこの内容のように、満願のささげものとして十字架上でご自分の命をおささげになったのです。これによって、貧しい人は食べて満ち足り、この世で一人も滅びない永遠の命を、一生涯をかけて与えられました。

一生涯をかけた祈りを、イエスは、受け継がせてゆくため、それを記念させていくため、最後の晩餐で祈りの記念を残しました。その時、十字架上の死を、食べ物、飲み物に置き換えられました。

十字架の死が奉げ尽くす愛、これは食べ物、飲み物に似ています。弁当のおかずは逃げていきません(参加者一同、笑)。食べ物となったイエスは、人を生かす。自分のすべてを与えるものでした。

総じて、イエスが最後に残されたものは、2つ存在します。1つは、今まで述べましたパンとぶどう酒。死を通して、奉げ尽くす愛。2番目は、新しい愛の掟。互いに愛し合いなさい。神を愛し、隣人を自分の様に愛しなさい、というものです。(2番目のものは洗足の行い

で発せられた内容)

この準備の上で、我々は次のタイトルに踏み込むことができます：「ミサは全生涯をかけたイエスの祈りの記念（新しい契約、新しい過ぎ越しの食事）」

すなわちミサは新しい契約。かつてモーセはイスラエルの民と契約を結ぶ仲介者となりました。イスラエルの民を契約を結んで約束の地に向かわせるため、そのため十戒を守りなさいとモーセは命じました。十戒を守るということは、生活を通じて、神がどんな方が分かるように、なることです。

（新約の）新しい神のもとでは、私達はイエス様を通して、洗礼を受けた人によって、約束の地に向かって歩める様、十戒を実行するよう定められました。さらに、イエスは、十戒をまとめるかの様に、「互いに愛し合いなさい」、との契約を残しました。

ミサはその契約を思い起こして、イエスの教えて下さった愛の行いを生活の中で生きることができるよう、理解していくものです。

さて、過ぎ越しの「食事」から浮かぶものは・・・。福岡に来て、神学生志願者いっしょに来て、お昼を食べました。広島に行ってから食べられなかった、福岡のトンコツラーメンが食べて、とてもおいしかった（参加者一同：笑）。つまり食べものと飲み物がなければ、人間は活動することができません。すると、愛の掬を生きるのは難しいと言えます。（食べ物と飲み物で、愛に生きる力が与えられるのです。）**イエス様が残して下さった聖体の秘跡、これを食べること、飲むことを通じて、人を愛する力を、私達に与えて下さった、と言えます。**

（編者注釈：前ページのイエスの残した2つの教えの関連が、このように示されました。）

以上の準備の上で、ミサの2番目の理解は次となります。「ミサは、私達が永遠の命に振り返ってゆくことができるように、イエス様が準備して下さったもの、その中で、みことばと聖体がある。」

ミサは「新しい契約を思い起こして、イエスの教えに生きることができるためにある。」「その新しい愛の掬（隣人を愛すること）に生きるために、イエスが準備して下さった食事を頂いて元気なって、愛の掬に生きることができるようになること」です。

言い直すと、イエスによって新しい契約を思い起こさせ、それを更新していく、新しい愛の掬を生きることができるようイエスが準備して下さっていることです。その次の3番目の理解は、「ミサは、イエスキリストの全生涯の記念・現在化。」です。

ミサは、①準備、②開祭、③ことばの典礼、④感謝の典礼、⑤閉祭、とありますが、これらがイエスの生涯、①ナザレ、②宣教生活、③最後の晩餐と十字架の死、④昇天 に対応します。私たちとの関わりでは、①日常での奉仕、②日常から離れイエスと出会いを準備などと対応します。これらは表で示されました。紹介文はこれで終了しますが、今後、からしだねの紙面が空いた時には、この表を織り込んでゆきます。（編集 三谷尚）